



## えりも砂漠

森林乱伐された、荒れ果てたむき出しの丘陵地帯、はげ山にえりも岬特有の強風が容赦なく吹き付けた。この強風により、地表の養分のある土が失われ、赤褐色の火山灰砂の地表となった。こうして「えりも砂漠」と呼ばれる荒廃地域ができた。

襟裳岬の海は、次第に茶色に染まっていき、魚の漁は壊滅的だった。



「貧しかった、仕事がほしかった、緑を甦らせたかった。」

当時、畑の肥料に使われていたゴタ（雑海藻）を、草の種を蒔いた土の上に覆った。植林前の基礎となる草本緑化に大きな成果をもたらし、後にこの方法は「**襟裳式緑化工法**」と呼ばれる。

### 襟裳式緑化工法



森が海を育てる、

人を育てる

昭和四〇年ごろから、風で舞う赤土や土砂の海への流出は減少し海は甦り魚介類の水揚げ高は急速に伸びていった。**森が海を育てる、人を育てる事を証明した。**

緑化で広がる緑の樹海と青い大海原の襟裳岬は、大自然の美しさを取り戻していった。

